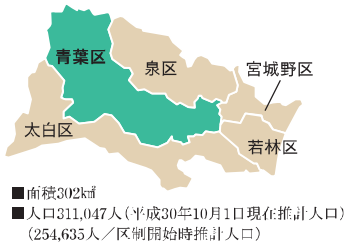


仙台市各区のあゆみ [青葉区]



● 青葉区の概要

昭和20年の仙台空襲によって市街地のほとんどが焼失してしまいましたが、その後の戦災復興事業や都市計画事業により都市整備が急速に進み、多くの行政機関、金融機関、企業、商店が集中するようになりました。区域は都心から宮城地区がある山形県境まで北西方向に帯状に広がり、広瀬川の清流が区内を流れ、詩情豊かな仙台のイメージと市民憩いの水辺空間を創出しています。市の5区の中で、人口、面積とも最も大きく、近代的な都市機能と豊かな自然環境が共存する「多様性」が区の特徴ともなっています。

● 青葉区のあゆみ

- 昭和62年 1987年 宮城町を仙台市に編入
- 平成元年 1989年 仙台市の政令指定都市移行により青葉区誕生
- 平成2年 1990年 青年文化センター、新科学館開館(台原森林公園)
- 平成3年 1991年 仙台国際センター開館
- 平成11年 1999年 仙台文学館開館
- 平成13年 2001年 せんだいメディアテーク開館
第1回仙台国際音楽コンクール開催
- 平成15年 2003年 仙台城跡国史跡指定
- 平成27年 2015年 第3回国連防災世界会議開催



川内地区

平成元年1989年撮影
(「伸びゆく宮城」河北新報社より)

写真左側下部の5角形の建物は、当時存在した宮城県スポーツセンター(現在の地下鉄東西線「国際センター駅」あたり)。その南側に1991年仙台国際センターが建設され、さらに2014年に建設された展示棟は、国連防災世界会議の会場となりました。

新たな指針 議論の地

5000人 被害減少策探る
本体会議

展示棟
広瀬川沿い 景観配慮

仙台市は国連防災世界会議の開催により、交通手段として仙台国際センター駅に新設した国際センター展示棟(5角形)を、国連防災世界会議の会場として活用する計画を発表した。展示棟は、仙台市国際センターの南側に建設される予定で、約5000人規模の国連防災世界会議の開催に必要となる。展示棟は、仙台市国際センターの南側に建設される予定で、約5000人規模の国連防災世界会議の開催に必要となる。展示棟は、仙台市国際センターの南側に建設される予定で、約5000人規模の国連防災世界会議の開催に必要となる。

平成27年 2015.3
第3回
国連防災世界会議開催
(仙台国際センター)